

# NEIGHBOR

vol.601

March 2024

3



東京の街角から開く  
循環型社会の可能性  
株式会社fog代表／大山貴子

や

やふつくらとしたにこやか  
な顔立ち、春の訪れを感じ  
させるやわらかな色づかい

の十二單——。ご覧の『つるとひな』が  
まとうのは、大正時代から昭和初期・中  
期のヴィンテージ着物だ。毎年3万点以  
上から厳選し、正絹の生地をていねいに  
解いて洗ってアップサイクルしている。

「こだわりは、美しい和の伝統美学が  
息づいているかという点です。現代には  
ない職人の情熱と時間と技術が施されて  
いる着物は、唯一無二の輝きがあります」

そう話すのは、『つるとひな』のプロ  
デュースと販売、ヴィンテージ着物の手  
配などを担当する『TSURUTO』の  
ブランドプロデューサー、大方知子さん。  
着物リメイクのセミオーダーサービスを  
主軸とするTSURUTOがひな人形を  
手がけることになったきっかけは、埼玉  
県越谷市の旧日光街道沿いで共に店舗を  
構える老舗人形工房との出会いだ。

「地元行事『越ヶ谷宿の雛めぐり』に  
合わせて、『あいはる人形店』の三代目で  
人形師の会田哲史さんと新しいひな人形  
を製作し、展示しようというところから  
スタートしました」と大方さん。当初は  
商品化の予定はなかつたが、展示の反応  
は上々でインスタグラムなどに掲載する  
と問い合わせがあり、販売が決まった。

けれども、そもそもは展示だけを目的  
としていたため、製品化には苦労した。  
たとえば、正絹の生地はやわらかくて扱

# 職人の新古妙技が随所に光る おひな様で春を迎えれば……

ヴィンテージ着物をまとう『つるとひな』



埼玉県の衣装着ひな人形は、全国  
シェア5割以上の出荷数を誇る伝  
統産業。色の深さが現代のものとは  
まったく違う、ヴィンテージ着物の世  
界観や色彩をもとに、調和するアレ  
ンジを加えていく





いづらく、対応できるのは熟練の職人のみで生産数は限られる。また、着物の色合わせという点でも一般的なひな人形よりも多くの手数と細やかな技術が求められ、職人は努力が必要なのだ。

そうしたなかで大方さんがうれしいのは「色合いが美しいとお客様や同業者さんからもお褒めいただくことが多い」と。そして、「十二単の重ね色は業界では大体決まった色づかいが多いそうですが、私たちはそうした慣習にはとらわれません」という通り、着物に合う色合いの組み立てを重視・優先する『つるとひな』は、年々ファンを増やしている。

「おひな様との距離が縮まりました」孫のために『つるとひな』を選んだ女性は、ひな祭りの喜びをそう表現した。思えば、これまでひな飾りの形式やしきたりばかりを意識し、おひな様に対しつづくりして、おひな様を飾ることが楽しくなったのだそう。大方さんが特に印象に残っているお客様の声だ。このメッセージと一緒に届いた写真に写る、心がこもった飾りつけ方に感動したという。

最後に、ヴィンテージ着物の生地はもちろん無駄にすることなく、フェイスカバーや小物ケース、お手玉など、ひな人形の関連アイテムにも使われていることを、筆者からお伝えしておこう。

ひな人形の台座やお飾り類は木工作家に、屏風は都内唯一の屏風専門店『片岡屏風店』に、オリジナル製作を依頼し、『つるとひな』はひな飾り全体のスタイルをコーディネートしている。「本格的なひな人形は必要ない」とこれまで思ってきたママさんや、「ほしいと思えるひな人形に出会えてなくて買わないままだった」というママたちの、「つるとひな」との出会いで考え方が変わって購入したという声は、大方さんらづくり手の励みになっている



# NEIGHBOR [ネイバー]



ひとは、今日の空に、  
明日を見ている。

発行／株式会社 千広企画 編集人／鬼塚政介 発行人／石井政勝  
〒101-0023 東京都千代田区神田松永町23(NC島崎ビル9F) TEL.03-3526-4511(代)

(No)XAAFN11-003-1

[www.ykkap.co.jp](http://www.ykkap.co.jp)

[ヨコ] YKK  
を考える会社 ap®